

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1175300282		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3丁目16番地		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成28年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成28年11月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は高崎線北本駅西口より徒歩15分の所に立地しており、幹線道路より一本中に入り、目の前には緑豊かな雑木林が広がる好立地となっています。庭の畑では四季折々の作物を栽培し、入居者様と共に手入れをしながら、育てております。近くの大師様に初詣に行ったり、季節の花を見学しに外気浴に出かけたりもしています。地域住民との交流も深く、小学生の慰問や、ボランティアの慰問等も積極的に受入を行ったり、地域の行事等にも積極的に参加し、日々、地域に根ざした一員として活動しています。併設のデイサービスにて交流会を行い、外部からの刺激も受けられるよう取り組んでいます。住み慣れた家で、地元で、安心・安全な時間を過ごせるよう取り組みを行い、家庭的な雰囲気の中で楽しく笑顔で過ごしていただけるよう、いつもそこに馴染みの顔の職員が居る施設となっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は開設から12年目のデイサービスを併設した2ユニットのグループホームである。開設以来、継続して勤めている職員もいて職員の定着率がきわめて高く、アットホームな雰囲気の中できめ細かい対応に努めている。利用者の「やりたい気持ち」を尊重し、できる事は自分でしてもらっている。開設以来、事業所は近隣への周知に努め、現在ではホームページを見てのインターネットでの問い合わせも多い。地区の小学6年生が毎年2日間来訪し、1日目は見学と利用者との会話を楽しみ、2日目は手品など自分の得意な分野の発表をして交流を深めている。また小学生からのお礼のお手紙を壁に掲示している。月2回、地域の方に向けて在宅介護についてのアドバイスをする機会を設けており、地域密着型事業所としての前向きな姿勢が感じられる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全員がいつでも確認出来る様に掲示し、朝礼の際には全員で唱和し、実践しています。	事業所の理念を各フロア事務室の入り口に掲示し、朝礼時に唱和をしている。職員に理念が浸透して、人権の尊重、コミュニケーション、接遇等日々のケアに活かすことができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、地域住民への当ホームの行事への参加の呼びかけ、散歩や買物の折、地域の人たちへの挨拶の励行をしています。	自治会に加入し、地区の夏祭りや体育祭、美化運動に積極的に参加している。毎年地区の小学6年生が来訪し、利用者は交流を楽しんでいる。大正琴、腹話術、ピアノ等のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でも地域の方に認知症について理解して頂く機会があり、方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回会議を開催し、市役所・地域包括・民生委員・自治会長・ご家族の方と話し合い、意見交換を行った上で、サービスの向上を図っている。	2か月に一度、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族会代表の参加を得て開催されている。防災対策や消防訓練、外部評価結果等が議題にのぼり、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当者の参加があり、事業所の現状報告とご意見を伺う等の協力関係にあります。	市の職員とは日頃から密接に連絡をとり合い、情報交換をしている。毎年市内のグループホームによる市役所合同展示会に参加し、作品提供と見学を行っている。行政主催の研修会にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修を通して身体拘束をしないケアについて全職員が理解し、取り組んでいる。徘徊のある方については見守りを重視し、夜間についてはセンサーを設置するなどして対応しています。	ずり落ち防止、転倒防止を考える中で身体拘束について話し合っている。傾聴を基本として言葉使いに配慮して、利用者の目線で話しかけるように心がけている。整髪や洋服、靴まで身だしなみに気を配り利用者の気持ちを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等への参加を通して虐待について勉強をし、職員間で意思の統一を図っている。入居者様の尊厳を守り、声掛けや言葉使いについても職員間で共有し、虐待の防止を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要としている方はいませんが、日頃から入居者様の意向を判断し、支援出来る様対応して参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き、説明を行っている。契約時には十分に説明をし、不安な点や疑問点を抽出し、納得を得ている。制度改正時にはその旨の説明を行い、同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書内に内外部への相談窓口を記載しており、面会時や行事等への参加時にご家族とコミュニケーションを取りながら、意見として出てきたことは可能な限り運営に反映出来るよう努力しています。	家族の面会時には積極的に話しかけて現状を報告し、質問に答えている。感謝されることが多い。事業所の照明についての要望にはLED電球に付け替えたり、受付に電気スタンドを置くなど、迅速に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努めています。休憩室には意見箱を設置し、意見を吸い上げるようにしている。また、個々が主体性を持って行事等の企画が出来る様配慮しています。	ユニット毎のカンファレンスで職員の意見を聞き、個人的な相談にも対応している。職員からは入浴の時間や曜日について、レクリエーション計画、備品の補充等様々な提案が出されて検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者様一人ずつにそれぞれ職員が担当を持つことにより、責任感が芽生え、やりがいにも繋がっている。有給休暇や希望休の要望に可能な限り対応しながらシフト調整をし、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修を抽出し、積極的に参加出来る機会を確保している。研修後は報告書の提出を義務付け、他職員も共有出来る様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の地域密着型サービス連絡部会へ出席し、情報交換を行い、他グループホームへの訪問等も行い、交流の機会を設けるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族様に見学して頂き、不安な事や、要望を聞き出し、安心して頂ける様な関係性が作れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報を元にニーズの把握に努め、十分な聞き取りを行った上で、要望を反映出来るような信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの意向をしっかりと把握し、サービス導入の段階で安心してサービスを受けられるようその時々に見合った支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事を手伝って頂き、こちらから感謝の気持ちを伝え、少しでも気持ちに張りを持って頂ける様、関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に入居者様が必要としている事柄を伝え、通院時や外食会等へ同行ををお願いし、ご本人様と関われるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や医院等、ご本人様とご家族様の希望があれば行く事の出来る様、支援しています。	家族の承諾を得た友人が来訪したり、併設のデイサービスへ友人に会いに行くこともある。家族同行で墓参りや実家に帰ることもある。個別にきめ細やかに対応し、できるだけの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良く観察し、皆様が穏やかな気持ちで過ごせる様、職員が間に入り、支え合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が中止してもお手紙を書いたり、逝去された方には1周忌にお手紙を添え、献花している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接お聞きしたり、会話の内容や表情で汲み取るように努力しています。	新人を含めて職員は利用者の趣味、嗜好、身体状態を周知している。利用者の意向を連絡ノートに記入し情報を共有している。言葉が困難な利用者には表情やしぐさから思いをくみとり気持ちに寄り添っている。	利用者の入居年数が長くなると共に生活のレベルの低下が目立つようになり、自身でできていた事が困難になっている方が多い。今後のサービスの対応について検討されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に直接お聞きしたり、会話の中から汲み取っています。また、ご家族様にお聞きしながら意向を探る等で今までの生活が継続出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、生活状態の観察、生活リハビリ等での現状の把握に努め、職員間で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段のそれぞれの生活内容を職員間で共有し、それを反映しています。また、ご家族の方との話し合いの結果と主治医の指導も取り入れるようにしています。	利用者や家族の希望、職員の気づき、主治医の指導、看護師の意見を取り入れて適切な介護計画を作成している。計画の期間にかかわらず、必要があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から職員それぞれが観察し、話し合っています。また、計画がそぐわなくなった場合は見直しをするようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への送迎や付き添い、ご家族の送迎等、ご本人やご家族の希望を可能な限り対応出来るように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお願いしたり、地域の運動会へ見学に行ったりしています。外食会や外気浴等で街の様子や四季折々の様子を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、月4回の訪看。希望者には月4回の訪問歯科を取り入れています。また、訪問マッサージを受けている方や、月1回の往診の対応を行っている方もいます。	月2回内科の訪問診療と、月4回歯科衛生士による口腔ケアが行われている。主治医へは24時間連絡可能である。外部受診は原則家族同行だが、職員が同行し日々の様子を伝えることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護があり、日中いつでも連絡が取れる様になっています。また併設のデイサービスの看護師にも相談出来るようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、状況説明しています。入院中はお見舞いに行き、状態を把握する様にしています。退院時はお迎えに行き、入・退院サマリーによる情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時、ご家族に同席して頂いて、ドクターより状態を説明して頂いたりしています。ご家族の思いや方向性を把握し、職員間で共有し、統一したケアが出来る様にしています。	家族には入居時に事業所としての指針を説明し、同意を得ている。利用者が病院から退院する場合は職員が同行し、医師や相談員、家族と話し合いをしている。職員の心の準備やケアの研修も段階に応じて行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時医療パスを作成しています。急変・事故時マニュアルを作成し、対応出来るように努力しています。また、最新の訓練を多くの職員が受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から災害について危機意識を持ち、年に2回消防職員、入居者様、職員、地域住民への参加の呼びかけを行い、防災訓練を行っています。夜間想定訓練も行い、常日頃から避難方法や対応が出来るよう努力しています。	年2回、デイサービスと合同で消防署立ち合いの下、火災と地震を想定した避難訓練を行っている。全員分の防災頭巾を用意し備蓄も完備している。職員用緊急連絡網の抜き打ちテストも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	偏りや静かな方がお話しされないまま過ごされない様、気持ち良く過ごして頂けるよう心掛けています。	個人情報書類は事務室で施錠管理し、パソコンはパスワードで管理している。トイレ誘導時や入浴時には羞恥心に配慮し、居室のドアは必ずノックして入室するようにしている。言葉使いにも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大人しい方や言葉に出せない方でも表情や様子を読み取ったり、意思を表せる様な話掛けを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況や希望に添った生活が出来る様、個々のペースを大切に考え対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや、ご希望に添って服装・髪留め・口紅等の声掛けを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、簡単な下ごしらえ、食器拭き、時には簡単な調理に加わることをお願いしています。	リビングからオープンキッチンでの調理の様子がうかがえて食事の楽しみがそそられる。畑で収穫した野菜も食材にしている。月に一度の外出や寿司、流しそうめんクリスマスチキン等の行事食も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食べやすい様にその方に合わせた刻み方や、とろみの付け方、水分は甘味を付けたり、ゼリーにして摂取を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた必要な介助・支援で清潔を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る様、タイミングを計り誘導を行っている。筋力が落ちるのを遅らせる為、立ち上がり運動をしています。	排泄チェック表を基に個々のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。排泄状況を朝の申し送り時に行い、きめ細やかに対応している。夜間のポータブルトイレ使用時には鈴の音で職員に知らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はなるべく残さないよう声掛けし、便秘時は乳製品の摂取を促し、それぞれに応じた薬の種類や量で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の体調や必要性を認識し、尊重したうえで、気持ち良く入浴出来る様声掛けや会話を心掛けています。	2日に一度午後2時から4時を目安に入浴してもらっている。浴室内を蒸気で温めて快適に入浴してもらえるように配慮している。敏感肌の方には個別の石鹸やシャンプー、保湿剤で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望により、夜の安眠を妨げない範囲でお昼寝を促し、夜間安眠出来る様取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や変更があった際には情報を共有し、正しく服薬し、観察しています。外用薬も正しく塗付しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲーム・体操・会話・声掛け等、一人ひとりが出来る楽しみな時間を持ち、散歩、外食等も行い、生活の活性を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望が有り、可能であれば外出の支援をしたり、ご家族にお話しし、外出の希望が叶う様、橋渡しを行っています。	体調と天候を考慮して月に1, 2回事業所の周りを散歩している。午後の時間に椅子を並べて外気浴も行っている。外食の帰りのドライブでは車外を眺めて季節を感じてもらっている。買い物には職員が同行し、可能な限り支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の心配がある方や、買物に行きたい方には不安を無くし、希望に添うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函や、メール、電話の介助を希望時に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く、分かり易く、安全を図り、作品作りに関わって下さった物等を飾り、楽しんで頂ける様にしています。	陽当たりが良く明るいリビングからは庭や雑木林が眺められる。落ち着いた色調の壁には季節感のある手作り品や利用者の書道、小学生からの手紙が掲示されている。利用者はほぼ全員が日中はリビングでレクやTV、雑誌を見て過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にカウンター、窓際、日本間の上がり口等に腰掛け、食席は穏やかに過ごせる様相談して行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や身の回りの物を置いて、安心される様、相談して行っております。	備え付けのエアコン、照明、クローゼット、鏡付洗面台の他に馴染みの品を持ち込んで貰い、その人らしい個性が感じられる居室になっている。全室の床に人感センサーを設置して安全面に配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて、必要に応じて可能な場所に手摺りを増やしたり、トイレを分かり易くしたりして、住み易さを考えています。		